

倭制栞中編

保倍部

二十三

					和書門類
			三六七二三		
		一三三			
	三架				
六四册					

庫文閣内					
三六三函		三六七二三			和書類
	二架	六四册			

内閣文庫	
番號	和 36723
册數	64 (57)
函號	263 7



A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





訓栞中編卷之二十三

洞津 谷川士清纂

倍の部

潜確類書朝鮮分八道西北曰平安本朝鮮古地
とる白平安城より一里なり外に巖似と云ふあり
一、岩石多し中より二丈ありの大石れ面より高麗王者曰
本、大也と彫刻せり、字大さ一尺を有りて深く切入あり
と戸川肥後守彼地より親しく云々と林氏の説也

平愈の字宋武帝紀より云

屏幔也と云

平縮と云り羽二重紙より文ありて縮むる平とい

平子と云下閉口左右結舌と云云と云り或ハ平降

の意と云り

根と訓一又馬鞭草と云ふハ非之女青也と云○女青此上
品瓜鳥れもつづくと云

△へこむ 俗語あり減龍の義之

△こわり 背許瓜よりくりくりのト云々

△こつぐ 下學集より字字瓜よみ庭也と注せり云々

△こたれ 俗より自墮落あるもの瓜云々○作あよてハハ

すワる意ト云

△へいき 職人奇合ノ組の具と云々押木此義あるへ

今丸木瓜角とのしけづたる瓜へ角と云々

△いぐち 盛衰記より初りよりトドロ志々云々笑つんと云

えより

△すおと 日本紀より倉下瓜より韓語ある云々

△べりり 蝦夷国より酒と云々

△そび 曼珠沙花の根と云々餘民根瓜云々食用ノ充

い○木綿のほむの小あら瓜とも同

△そぐろ 東国の俗語之臍思の義腹^{キタ}と云々同

△そくりぐね 鄙語あり臍より細りてくり出す金子と云々

ヤ

△ぶた 俗の口語ト云々つたつくともつたくとも云々

○錢背瓜もつ揚升菴集より漫兒と云々云々○ぶた

のうらんハ米の粉と小豆の汁りてつたつた也禁中より

させしる正月九日の序流とあり

△たふ 天工開物の經耙之又つたいと云々經臺の義也

△たふ 別當のよみさせあり別ハ家別のふれぬ一當と

專當の當と云々

△たづな 京の俗語之葦の如くト云々云々瓜云々

△つら戸 絲瓜瓜と云々つらと云々云々ア一或ハ蛮名と云

俗諺拘忌強ひしつらまの皮とつゝ又俗に用ひく垢と
去まり古きね致し

心なつらまの皮孤絶すあふこ世の垢とあつらんたる
去寄へらまを称するハ極て長大ありあつらんたるハ信
濃しとらまの系瓜の畧あり薩列しあつらつとつゝ或説
しとらまの系瓜の畧あり薩列しあつらつとつゝ或説
つらまの系瓜の畧あり薩列しあつらつとつゝ或説

△つらくまん 乏観とけりいどけとる茶の會ひすふ孤ノ

観流しつゝ上京ノ坂本屋として号孤如夢観とつゝ後改
めつゝノ観とつゝ一溪道三の姪婚之人ノ及りぬとつゝ意之
宗易ハカノ後之典四郎とつゝ比栗田口此屋孤尋しと
わり世しつらまの皮のふんぶくろとつゝもノ観馬の草袋
とつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ
△べりー 漢献帝紀ノ孫権為牋与曹操別紙言足下不

死孤不安とつゝふれハ今もつゝ書札とつゝ是末へ

△つと 色の藻ありたきつととつゝ美しとつゝ

△つと 中臣被詞とつゝ也舳綱と

△つらん 鼈羹とつらん又らんちやうつらんあり鷺腸羹と又

△つらん 志らんらんあり松路羹と又ふらんらんあり 麩羊羹あり

△つらん 別火也經行の婦人出孤別しとつらん〇出を

△つらん 大社ノ別火と称する祠官ありり 賤氏と物部十市根

△つらん の大連の後胤とや鑰と守る職と

△つらん 万葉集ノ邊浪とつらん磯色の浪也

△つらん 神代紀ノ色風浪とつらん

△つらん 別懇とつらんつらんつらんつらんつらんつらん

△つらん 何蘭陀の下司也

△つらん 舟のつらんあがる浪之後古今集

熊の川せきり、海舟の舟の油のわき、ちりか

あり 萬葉集、隔の義、だらしく通ると

あり 徒然草、ひものる、武藏國金沢浦、

多くあり、海人、あり、即是海贏の鱈之

と、あり、あり、あり

ありて 万葉集、隔つありと、あり

ありも 俗、水痘と、よきもの、れ義痘、近き意、

あり、たけ 八閩通志、胭脂菰也、あり、食、あり

九あり、志、あり、あり

あり、たけ 蛇草の義、蛇蟻の蟻、生、するもの、物草

あり、似、非、大毒あり

あり、たけ 山松、あり、似、大毒あり、採、謬、あり

あり、たけ 本草、黄領蛇の條、巧兒、多養、為、戲、弄、死、即

食、之、と、あり、あり

あり、む、い 氣、蟻、あり、人、さ、ま、ハ、氣、出、を、あり、て、よ

あり、新撰、字、鏡、と、あり、今、舶、来、の、班、猫、中、此、の

あり、新撰、字、鏡、と、あり、回、あり

あり、む、い 新撰、字、鏡、と、あり、水、母、と、注、せ、り

蛇の、後、者、の、意、と、あり

あり、む、い 松前、の、方、言、也、を、あり、ち、く、む、き、り、と、あり

あり、む、い 班、杖、あり、蛇、の、大、八、と、あり

あり、む、い 俗、小、兒、の、服、あり、越、後、ふ、と、あり、忌、避、る

詞、也、奥、羽、尾、張、也、あり

あり、む、い 偏、頗、の、字、書、經、と、あり、〇、沙、面、あり、毛、ひ

き、つ、り、あり、あり、意、通、あり

あり、む、い 古、事、あり、可、分、あり、あり、あり、の、約、言、也

あり、む、い 樹、皮、の、煮、あり、物、に、染、る、の、用、と、あり、鋼、鉄、の、さ、び

あり、む、い 〇、蛮、國、の、名、あり、あり、ハ、楠、葛、刺

と訳す東印度の地として今莫^モ吹見^キに属すと云う緯ハ
木綿^キ經^キハ綿糸ありてづんがう^ウの^ノと^トなる此國より出る
あり和蘭人行く交易すと云

つんせう 無名抄^コ此十卷の奇を返抄もたびつゝ^ク免

ゆれ庭訓往来^キ名生百姓請取返抄類聚國史^キ使無
返抄不類^キ禮務と云あり請取書の如し

つんむい 下學集^コ返閉ハ天子出御之時陰陽家の行ふ

る也又禹步と云うと云うより反閉の字十節終^キと云う
五字の反閉とハ天武博^キ亡烈ありと三議^キ一統^キと云う
軍家^キ遍唄と云うも是^キ返抄と云

つんまう 偏執^キといけり

つんぼう 片瓢^キと云う或ハ短ヒと云うやきとの^ノル^ド之

つんこう 辯口の字通^キ盛後周世宗紀^キと云

つんちゆう 返納^キと云う貞信公記^キと云

べんてん 弁財天あり弁財天ハ日輪の内^キ観^キと金光明^キ經

の説^キ一弁財天^キ經^キハ偽^キ經^キあり

べんたう 弁當^キと云うけり行厨と云うあり昔ハあり信長公安

土^キまて^キ始^キて視^キと云^キ○糸^キと云^キと称^キと云^キハ春撞^キありとい

る○茶弁當^キハ水火爐^キと云

△(やわ) 禁裏^キ戸屋生^キと云あり御草鞋^キと奉^キる

△(のき) 農夫^キ此木の皮^キと剥^キて繩^キと云^キ馬具^キ腰蓑^キと造^キる

苎^キと織^キの糸^キと云^キ葉^キと云^キより^キ落^キ葉^キと云^キて実^キありと恰^キも善
搜^キ子の^キと云^キ英^キ蓮^キと云^キと云^キ○一^キ種^キ桐^キと云^キ似^キと云^キ大^キなりと
の^キ根^キ樹^キありと云

つんちゆう 俗語^キあり諂諛^キの意^キと云^キへ^キの^キ轉^キ語^キあり

つんちゆう 新撰^キ字鏡^キと云^キと云^キ鏝^キ莖^キの義^キありと云^キ鏝

つんちゆう 和字^キと云

つらみ物語の後 くらみ物語の事

△ペリ
亜墨利加大洲の内の亭露又ペリともペリかと
も呼ぶ鳥獸多く羽毛の美声音の麗天下第一也金銀多
く鉄と産とん後來雨あり龍卵と此地の産也文字あり其
正音より万里の外より通る韻律の國ありて唐土より
とらる

倭訓栞中編卷之二十三終

倭訓栞中編卷之二十三

保の部

かいふー 無本意と物とるふらうかいわあぬほひけ
てふとも同

かいたう 埃囊抄に飯米の陪堂とらふ叢林語とらふ
しつらう今東鄙西偏とらふ食はつらふも飯米とらふ

かいきん 鉢盂巾のたより鉢とらふきぬとらふ
かいづち 大寶二年に訓郡火雷神とらふ風土記に感丹

塗矢生子因外禊父之名又号賀茂別雷神所謂丹塗矢
者に訓郡坐火雷命是也とらふ式に訓坐火雷神社と

△かう 兵仗の棒ありにふら種々の法あり○田籠の棒

料理魚尊者謂之庖丁とけり○庖丁者の物ハ山陰中納言
ありと徒然草と云ふあり鶴の庖丁ハ庖人の秘蔵るところ也

りけつく 源氏と云ふ法氣着の義ありと云ふ佛道先
きあるあり

りけつく 和名抄と云ふ蕃寮と訓あり法師蕃寮
と掌る官あり道遥院の説と云ハ遠也遠方蛮夷の客は司官
官ありと云ふされんを僧の義とするハあり

△やえうか える及ゆ之獸の鳴はつと神代紀と向と云えき
とよけりきハつり及ん

△やうがき 儀式帳と防往籬と云ふあり延經の説と柴籬之
と云ふ

△やんこ 靈異記と載はつたり或ハ載し作る詳あり
△やんみ 新撰字鏡と祠と云ふありやんみと云ふ同義あり

やうわ 行器はつと江次才と外居と云ふり足の外と云ふ
たろはつとや大外居も云ふ

やうげ 源氏と云ふ火影の義多く焼火と云ふ
ほつす 信と捨と云ふ放下の音あり或ハ去下とも
と云ふ

ほつえ 枕草紙と云ふ目ありと云ふり
ほつあ 帆風の義荒聞集と近代大津氏と云ふ

やがーハ 柏のつと云ふえはつと云ふ
やがたえ 方堅りと云ふけりやうと云ふ此もあつと云ふ是
やうらろ 万葉集と外心と云ふ恋と云ふ

△やぐく 木根のつと云ふ山形と云ふつと云ふ西土り
木假山の名ありと云ふ又益供の音訛と云ふ

かくり 獨脚蘭あり四國と云ふと云ふ古と云ふ蘭と

如く淡紫色の花穂はをり黄荊も同

△かこん 鶯のつゝみ羽の義鳥は追新て山あここゆふ

として一文字あり飛越る羽也とつり

かこぎ 宇治拾遺に高欄のやうなとてつり羽れや

立あろ木あり

かこのぬ 鷹のつりて居はつり牙居の義之

かこぎぬ 架衣とくけり鶯洞あり

かこたけり 文選に樹はつり倭名抄にハ根はつりりた

ちのトノミヤ

かこけき 延喜式に鋒鉾し作り儀式帳に梓前しゆり刀

子錐針と並裁ふれと一程のもの案に新撰字鏡にハ

欽とやみのきたとつり

かこつり 補骨脂とつり近東西土の狩はつり葉ハハ也

し似く六月小紫白花は弄く

かこすぎ 万葉集にさ由牙松あり杉の直きは牙こ比

てつり一説に杉のふれは

かこりだけ 馬勃はつり奇品あり耳つれもつり或は

やぶたきともつりあり

かこつりやり 鷹のつりはつんとするよりこやくふに

する事也とつり

かこりこつひ 花徑に拂塵帚とつり

△かこな 北人樹上晒乾菜冬青食之詩所謂棲菹言如

鳥棲然と暇日記につり又懸菜とつり姓に星名

あり盛衰記に今保科にゆり是和名抄に出る

信濃高井郡の穂科にあり

かこ色の 今乾物言はつり脩是也論語に

束脩充傳に女贖不過榛栗束脩とつり類聚雜

要に干物五杯とつりも考はつりよむに〇九て日乾の

雑色瓜もろり

瓜もろり 星白とせり曹の名あり

瓜もろり 星蕙の義本草藜蘆の附録より参果

根をりもろり

瓜もろり 和名抄より由雉脯瓜より

瓜もろり 星之井也江州山邊邑よりあり星夕より天子硯

瓜もろり 水瓜七月初旬より文殿官人下向より取来より天子硯

瓜もろり 序奇瓜楮の葉七枚よりせしむるより

瓜もろり 星草の義穀精草也より一莖一實此物之

瓜もろり 大鼓のふらともより一莖数実の者と星宿系より

瓜もろり 石也瓜より石ともより信濃岐岨の山中より

瓜もろり 薩外瘡あり同名同物あり又尾張の玉壺山阿波勝浦

瓜もろり 郡の星谷撮列東生郡の星池あり皆星落く石となる

瓜もろり とし伝ふ落星石あり江列野洲郡栲村より元文中

瓜もろり 瓜の大き甚堅実よりて金色文理ありとより

瓜もろり 夢溪筆談より記せり一圓石執換其大如拳一頭微銳色如

瓜もろり 鉄重とより陸奥出羽の河より一星糞と称するハ葦夜星

瓜もろり 瓜事多し屋根より下ハ瓜より葛餅のめりともより

瓜もろり 資暇集より星貨舗とより

瓜もろり 和名抄より脯瓜より乾魚とと置たりひる瓜と

瓜もろり 瓜又脯瓜は鮑魚も同し

瓜もろり 乾瓜の義塩水より漬り乾する瓜も物とん

瓜もろり 瓜瓜や湖の子のこの拾小舟

瓜もろり 星見草の義菊瓜より清菊奇あり

瓜もろり 和名抄より喪礼図瓜引て白布帷以障婦人

瓜もろり 今按俗用ニ歩障ニ是と云えより

瓜もろり 星月夜也星ありて月の如くある夜あり

瓜もろり ○星月夜此井ハ鎌倉よりあり星月夜鎌倉山よりあり

よふかりにけりき意にけり後堀河百首

我ひとり鎌倉山にけり月夜をそけりけり

かしのふゆ 七夕の舟にあり 神樂のうまひに星あり

かしのなや 星の多く集りたる山林といふは若菜

集りたるけり ○伊勢度會郡山中の林家にあり若

の大ききして葉の花形石にけりたるけり名は星の林と

いひ傳り 辰宿にけり又歳次とけり星宿の義に

かしのやどり 禁閑に公卿の列坐するに衆星の天に位

するに喩ありあり 日本紀に星辰にけり

かしのひより 星に戴て出仕に星に戴て退守臣乃

節也詞花集に

かすめんす 咬啣吧の土産に人似たる大猴にけり

かすめんす 最末の我にけり異あり

かすめんす 和名抄に熟瓜にけり極寒して蒂は赤

義とけり枕草紙にけりたるけりまづせんとする

かすめんす 俗に末の熟して坊のあきたる

かすめんす 後拾遺集に赤

かすめんす 日本紀和名抄に蔓椒にけり今の蔓山

椒して細木の義末へり ○新撰字鏡に椒字のけり

けり又延喜式に蔓椒ともけり ○但列にけりけり神

委訓集 中編卷之二十三

△かつき 水銀は焼く輕粉とするに用ふる器あり徳坏の義あり

かつと 俗語之なりと息するなりハその音はソと索

かつけ 法花とちり妙法蓮花經あり○南岳大師の語昔在靈山名法華今在西方名弥陀濁世未代名

かつか 観音三世利益同一体矣とちり 今の氏姓は八月一日はより藤橘の義末て

かつて 稻穂はりの之拔穂と紋とす 物の終はりハ排殿とちり○鎧の胴下けはんば

かつら けりもろり○俗に物事ハ就く凡てハ上との義ありハ

かつら 法曹とちり漢に賊曹あり或ハ法曹とちり刑法

かつとく 發足の字魏元帝紀にちり

かつむい 和名抄に疽俗云発背とスえちり

かつたて 堀立あり妙々家居あり地上に石居ハして

かつたん 北縮とちり東京より事とちり

かづり 体貌々々としてり或ハ綽ハ訣セり俗に落雪

かつかう 俗にがらこらうばんと云ふハ荘子の婦姑勃

かつて 俗に瘡疥のたれとちり

かつきて 義あり一盛衰記に漆は湯にまて身はゆひをう

かつきて 出雲風土記に法吉鳥とも詳あり

かつきて 必島根郡に法吉神社あり

かつげざう 法花堂あり古より古き骨伏ぬる所

法花堂あり後土御門院後柏原院奈良院三帝の骨

ハ深草安樂院法花堂一収まる二水記しるなり

かつとろろと 石筆の番名あり 法性寺とあり今東福寺の界内法性寺

かつまやうと 大路とあり

△かてで 藁にて造りて奥ろとびんとの之航手の義

かてい 東へ一は戸して弁菱とよみ彼七ツ道具は負しゆるる之

より花子安貝のぬり 布袋和尚なり○かていまあり天南星と似

がてうり 俗語あり荷あり賣する者かり捧る振の義

あまへー信濃とてかてふなりとよみ○いさき信州上州

よかてととろり

△かとしら 神代紀し火震と云ふなり

かとりを 神代紀し雄柱とあり櫛のあや苗はとろり

又とむしらはもよびへー古る紀し男柱しゆる幢柄を

ととこはけらとよびりぬるて櫛の高欄の柱の

内橋板のちささむしと柱と男柱と唱まむり

かとしら 和名抄し百部はとろり款撰字鏡し百部根

はかどののよらり今特生蔓生の二種ありつゝハゞゞ

の謂あり

かとしのざ 七種菜しとろり佛座の義今し蓮華草救

荒本ましとろり碎米齋也とろり又風輪菜とよみとろり

きんとけしとろり名くるとの風輪菜あり佛の座しとろり

らすしとろり

かどよくす 節享はとろり程善する

かとしら 跳はとろり踊走の義とよみ日本紀し踊

かぶむ

源氏より申頼唱の義

かぶら

頼被の義あり一因州にてハ放下つらりと

よとそ

△かん

うづほんが畧して盆とのことなり七月の節

かん

唐人の腰かけの鼓之皮をハ張くと用也

かんま

姓よりよき本間とあり○大和葛上郡一本宮村

ありも神武紀より神間丘の精あり

かんた

上古ハ韃靼かんたといひる日本紀より也

譽田天皇の御名也此物よりとりて也不むるもの義あり

一〇姓よりよも同ハ本田ハ東鑑より也

かん

先斗とあるハ博奕の名目より出たり

かんま

本望の字宋孝武紀より也

かんぐ

今神宮に用いて土器の名あり倉屋の字もや

古へのひらき来一

かんあみ

龜山院の比妙本阿弥佛といふ者よりカハ相

を嫡流の子孫との名ハ家号として阿弥と稱す四代の孫

本光其業より巧より更ハ光字と号とす

かんさん

盆山の字雲林石譜よりえより盆石とい

つり羨濃赤坂山より盆石谷あり土ハ堀より出すといふ東

山殿より

盆山の主人ハ後ハ遠き海を名あしむ

かんから

白牽牛菜ハ一ろり五里あり

かんのくが

著聞集より也項のくがより野分よりあり

あどのくがとりより續世徳よりえより三議一統ハハかん

のくびとんよりりハ缺盆の穴ありよりりりる相兼へ

かむけみき

儀式姓より火向神酒とえより又火無淨

酒とよみるるより

巴里人ハ堀難の義と寸今碑記建より千載集

ひさしのりりく孫の井も何らこの瓜うけくも水の近つきり

△瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

の中蛮國の名あり○瓜の種やハ歐羅巴の内波羅泥亞

とちり 瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

瓜の種 瓜泥又淳泥とちりちり孫よくもり西細亞

